

未来への地団

建設未来フォーラム

代表 佐藤 士朗

総合評価で工事成績評定点は大きな位置付けにあります。総合評価方式自体は、公共工事だけの特殊な落札者決定要件ではなく、一般産業での競争はほとんどが目に見えない総合評価を受けていますので、さらに厳しいものとなっていきます。

工事特性・創意工夫・社会性など、これらの加点項目はなぜ存在するのでしょうか。

本来工事は設計書通りの構造物を与えられた期間内に品質良く安全に予算内で造れば良いはずですが、それが・施工体制・施工状況・出来形出来ばえという部分での評価になります。

まず、工事成績評定点の評価項目を思い出し下ろさう。

ですので、段取りをきちんと組んでいきます。

自然災害と建設業 ②

現場には、公共機関(発注者) 地域住民、自然環境、会社などの外部環境が大きく影響を及ぼしているのが現実です。そこに加点項目が関係してきます。発注者側はそれを分かった上でそこまできちんとマネジメントしろと言っているのだと思います。

施工管理の現実

加点なぜ存在するのか？

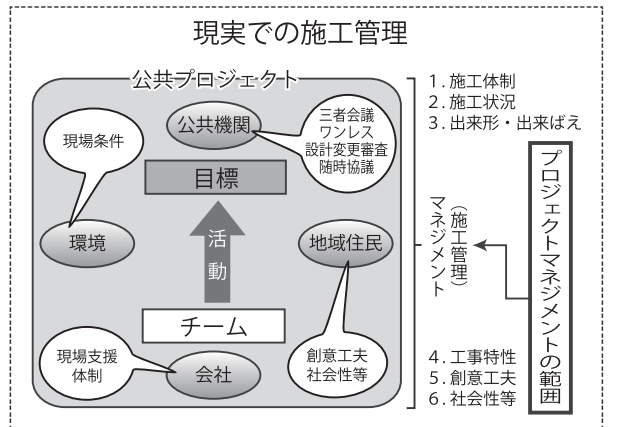
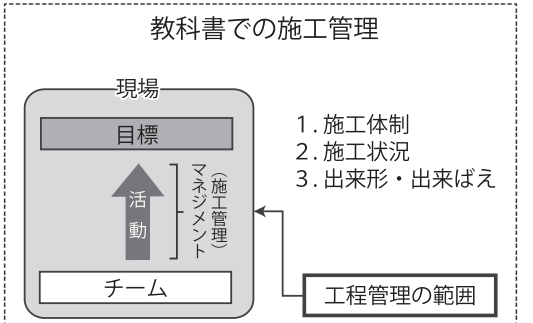
実はそのマネジメントが一番大変だったりします。

発注者との三者会議、ワンレス、設計変更審査会、随時協

議、付随する書類作成、現場の状況によって変わる施工条件、気象への対応、

会社からの支援体制構築、そして何よりも大切なお客様である地域住民とのコミュニケーションと

この本来の仕事以外の部分での現場に与える影響へのマネジメント能力が加点項目として存在し、対応していかなければならないのが公共工事の特徴なのです。



未来への地団

建設未来フォーラム

代表 佐藤 士朗

三方良しの公共事業が目指す「地域住民」「発注者」「建設業者」の三つ巴が現実の世界ではなかなか満足されずに、公共工事がまるで悪者であるかのようになっています。

さまざまな災害の中で、自らが被災者であるにもかかわらず真っ先に駆けつけ対応を行ってくれたのが発注者、建設業者のはずです。

なのにマスコミでは自衛隊員の救出作業、ボランティアの活躍ばかりが取り上げられており、完全

東日本大震災、九州北部集中豪雨など

に影に隠れてしまっているのです。

地域の人は認めるために、は困っている中で黙々と仕事をすることはなく、人対人の関係の中でこの壁を打破してい

自然災害と建設業 ③

お互いの壁を取り払う

地域に認められる方法

くことが大切な時代になってきていると感じています。

受発注者が力を合わせて災害防止、復旧を目指し、地域住民が安心して安全に便利に暮らせる場所を提供する仕事を行います。

代理の方々約100人に書いていただきました。

内容は現場と地域住民のコミュニケーションについてです。

その結果を見て驚くとともに、いち住民として反省しなければならぬ

よつな事も)。「地域のために一生懸命仕事をしているのになかなか認めてもらえない」、それどころか「クレームが来ないように気を使って作業をしなければならぬ」

「生活の邪魔にならないように気を使いな

ながら作業をしている」という事実がこ

れでもかというほど書かれていたのです。しかしながら建設

すい公共工事の見せ方が必要になってきます。

